

岡山・米田遺跡

戸・土坑・柱穴群などの遺構が検出された。

河道はほぼ東西方向を示し、北側にも集落の存在を示唆する橋脚跡が四本遺存していた。この橋脚付近では、鎌倉時代前葉の土師器・輸入陶磁器のほか、瓦・木製品・貝殻などが出土している。小型卒塔婆が、この橋脚の西5mの河底近くから出土した。

8 木簡の翻文・内容

(1) 南無大慈自在

196×16×11 061

上端は尖らせて左右対称に一ヵ所ずつの切り込みを入れ、下端はさらに鋭く尖らせる。書き慣れた文字は墨の残りが比較的鮮明である。橋脚遺構の近くから出土したことからすると、施餓鬼会に使われたもので、行き交う人々の供養によつて追善し成仏させようと、橋梁付近で使われたとみられる。

9 關係文献

岡山県教育委員会「米田遺跡—米田排水機場建設（湛水防除事業
東岡山地区）に伴う発掘調査」（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告一〇一）

岡田
博



(岡山北部)

き微砂質の基盤層上面に形成され、鎌倉時代に比定される掘立柱建物二棟・井

